

■ VISTA 5 SR ユーザーレポート

兵庫県立尼崎青少年創造劇場 ピッコロシアター 様

VISTA 5 SR



2台のVISTA 5 SRをメイン卓として採用



兵庫県立尼崎青少年創造劇場
(ピッコロシアター)
舞台技術専門員 安積雅彦

兵庫県立尼崎青少年創造劇場(ピッコロシアター)は、次代を担う青少年たちの自由な創造活動を支援するための場として昭和53年に開館、当劇場の特徴として人材育成に力を入れ、昭和58年には「ピッコロ演劇学校」を開校、平成4年には「ピッコロ舞台技術学校」を開校、いずれも全国の公立文化施設では初の取り組みとして評価され、現在も多くの学校生が学び、卒業生がプロアマ問わず活躍している。また、平成6年には全国初の「兵庫県立ピッコロ劇団」を発足、質の高い舞台芸術の上演とともに、演劇の普及と演劇を通じた教育などを、県内のみならず全国から海外まで展開している。このような運営が評価され、劇場として昭和63年にサントリー地域文化賞、平成17年にJAFRAアワード(総務大臣賞)を、ピッコロ劇団として平成10年に文化庁芸術祭賞芸術祭優秀賞、紀伊國屋演劇賞団体賞を、平成20年に2度目の文化庁芸術祭賞芸術祭優秀賞を受賞した。ハード面でも常に快適な舞台環境づくりを心がけ、平成4年度に音響設備の全面改修を実施、今回は2度目の改修となった。

今回の改修については「省エネ化」「デジタル化」をテーマとし、当劇場の特殊性にあわせて計画した。

特殊性の一つが「催し物」、「ピッコロ舞台技術学校」はプロが実際に使用している機材をそのまま使用して授業を行うために、操作性の高さはもちろんのこと、「見た目」で分かりやすいものが求められた。また卒業公演は、2作品を同日に上演するためメイン卓を2台用意する必要があり、一方は生徒がオペレートするので、トラブルに強いことや柔軟な対応が出来ること、入出力部の可搬性に優れていること、また学校生は女性が多いので、軽量かつシステムアップが簡単であることが求められた。

次の特殊性は「場所」、当劇場の音響調整室は客席後部上方のブースに設置されているが、現状は中小ホール管理も行っているため、ブースで操作をすると支障がでることから舞台袖にメイン卓を常設状態にして運用している。このため広いスペースが使用出来ないため、コンパクトかつ機能的な機材の選定が必要になった。このような実情から機種選定にあたっては上記の条件を満たし、劇場の特性にあった機材とすることでVISTA 5 SRを2台導入した。それぞれに2画面表示のモニターを採用、パソコンと連動することによりきめ細かなオペレーションを

実現した。また舞台下手袖と上手ギャラリーに移動用ステージボックスを設置、上手袖のメイン卓、音響調整室とそれぞれが光通信で接続されるという劇場では日本初の方法を採用した。客席移動用卓は移動用ラックに接続すればそのまま音響調整室に組み込まれたDSPにつながることで、余分な接続作業を省略することにした。当初、劇場への納入事例がなく不安もあったが、デモ機を持ち込んでいただき一日がかりで様々な検証を行った結果、改修の象徴として導入に踏み切った。

操作性は「デジタル系」と「アナログ系」の間という感覚で、従来のSTUDERアナログ卓のクオリティを十二分に引き継いだデジタル卓であり、主催者の演出意図を直感的に操作できるメリットがすごく高い。使用開始から間もないが日々発見することが多く、「あなたならどうする？」というオペレーターの方に直接問いかける無限の広さを秘めている。

今回の改修に当たっては先に貸し館予約があり、その間を利用し休館日も改修作業をするという連日の過酷なスケジュールだったが、当劇場の取り組みを十二分に理解していただき、寸暇を惜しまず尽力いただいた工事関係者に感謝するとともに、新しい人材が生まれることを期待している。